「幸せ日本一」を目指し、町長は８年間幸せであったか

町長　幸せ感があった

春日（かすが）　隆司（たかし）　議員

谷町政８年間の総括

質問　この８年間、町長は幸せでしたか。

町長　幸せ感があったと感じています。

再質問　２年間遅れ、策定の約束であった行政改革はなぜ出来なかったのでしょうか。

町長　次の方に期待します。

再質問　策定するとしていた温暖化計画もなぜ策定出来なかったのでしょうか。

町長　しっかりした計画を立てるため先送りしました。

再質問　除排雪費がこの８年間でなぜ３倍になったのでしょうか。近隣でも２倍です。予算措置して、お金はあるだけ使う。執行者の責任ではないですか。

町長　町単価が非常に低いので道単価に準じました。そこで単価の上昇がありました。

再質問　循環型森林経営というのが飛び交いますが、造林は４年間で48㌶です。主伐は１４０㌶くらいです。成長量以上に伐採しました。

町長　どんな施策も１００％はないです。

再質問　この４年間人口は、２５５人の減。うち４人に３人が子ども、子育て世代です。人口対策がなされず、人口動態に影響し、３，０００人を切ることの影響は今後出ます。

町長　新たな政策形成に期待します。

再質問　この８年間で庁舎内の３人に１人が退職しました。

町長　今後、職場の環境改善が求められます。

町は８年間で衰退、後退

質問　人口も職員もどんどん出て行っていったのが実態です。

　長年の循環型の森林経営から、色々な取り組みを行い蓄積された政策効果や地域の魅力づくりが、平成26年度で結実され、日本のモデルに押し上げ、平成27年のＳＤＧｓアワード受賞となりました。その余韻で４年間経過し、魅力づくりや政策の取り組みが出来ず、町は衰退、後退をしました。この８年間で前進、進化したのであれば説明をいただきたいと思います。

町長　８年間で政策形成は非常に乏しいものがありましたが、様々な施策展開をして、そして成果を上げてきたと思っています。

客観的評価

質問　谷町長前の平成26年の住民アンケートでは、住みよい町と答えた人は79％、今回４年度は69％です。住みにくい町と答えた人は９％であったものが16％に上がりました。町外に移りたいという人も11％が22％に上がりました。これが客観的評価です。町長の政治公約では、住み続けたい町という結果にはならなかったです。

町長　行政としてどこまで課題解決をしていくことができるのか、職員の施策形成や首長の政治手腕を期待します。

賢明な議会判断

質問　町長が政治生命をかけた８億２，０００万円のバイオマス熱供給熱導管事業は、余剰熱の実態からすると本当にやらなくてよかったです。

町長　否決され大変残念な思いをしました。企業誘致の一つにも繋がりました。

再質問　企業誘致ではありません。言葉が一人歩きすることが８年間続いてきました。議会は本当に賢明な判断をしました。町長は、町の二分解消のために努力されたことはありますか。

町長　二分という考え方はしていません。

再質問　８年間、議案否決・修正・取下げが多くありました。議案が荷崩れ状態でありました。提案する人の責任も多大です。町長は議会も長年経験されているので振り返っての思いはどうですか。

町長　政策形成能力の高い議員が増えたことに尽きます。

町史へのコメント

質問　谷町政の８年間を振り返り町史に記載されるとした場合のコメントはありますか。

町長　一生懸命やってきたということに尽きます。

再質問　先人が築いたものを望ましい姿にして、町民と職員が一丸となって下川が永遠に続くことをご祈念申し上げます。